

# 雌阿寒岳

## 1 概況

地震活動や噴煙活動は低調な状態が続いており、火山活動は静穏に経過しています。

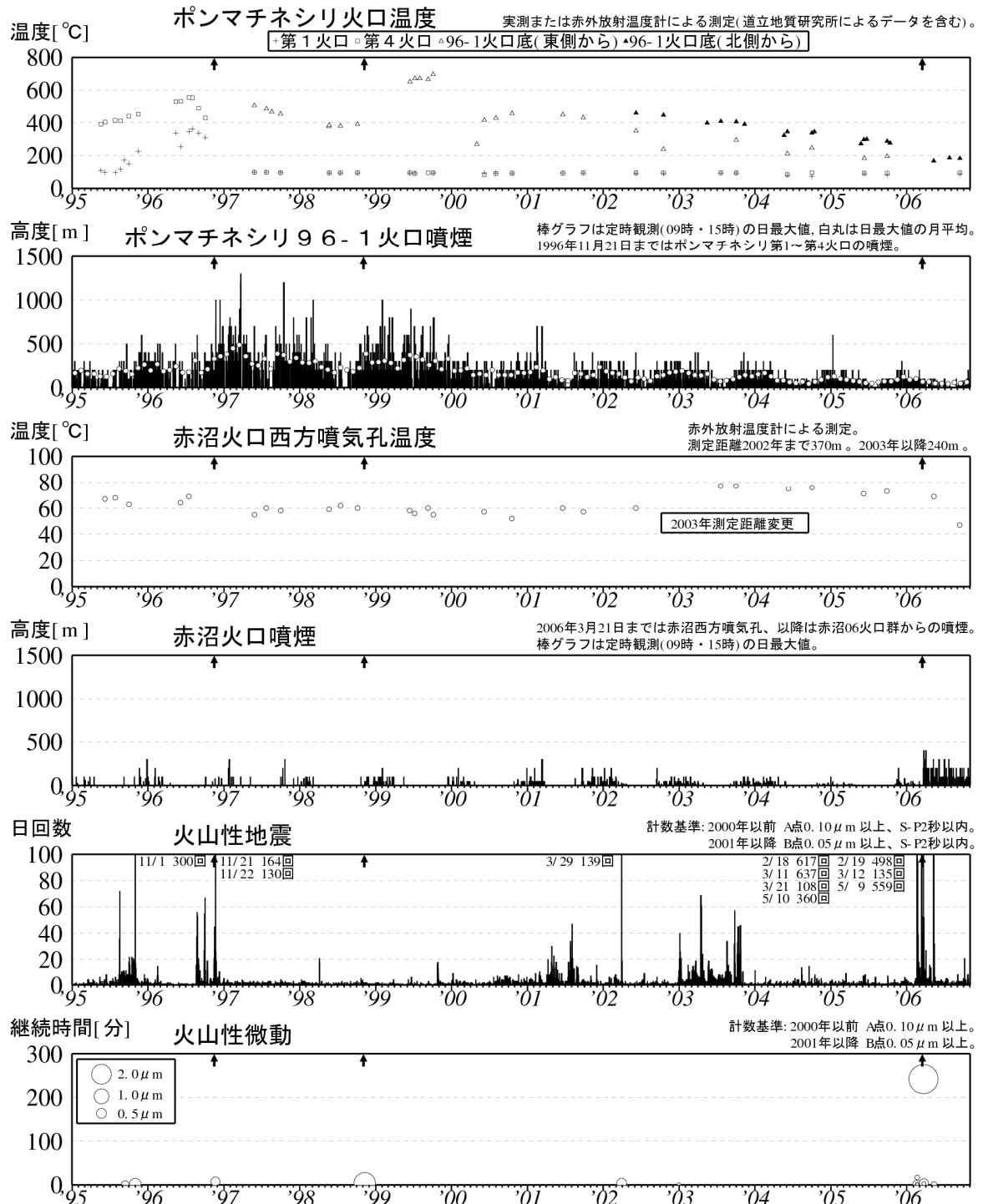


図1 雌阿寒岳 近年の火山活動経過図(1995年1月～2006年10月) ↑印は噴火  
 1996年、1998年: ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火  
 2006年: 赤沼火口及び北西斜面からの噴火

雌阿寒岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。  
 本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』および『数値地図 10m メッシュ (火山標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

## 2 噴煙および火口の状況

赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動は静穏な状況で推移しており、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100～200m で推移しました。また、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは、火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

5 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、山頂の赤沼火口の噴煙は複数の箇所から白色の噴煙を噴出しており、噴煙の勢いは 2006 年 5 月頃と比較して明らかに弱くなっています。

山頂の北西斜面 06 噴気孔列では噴気が少ない状態でした。ポンマチネシリ 96-1 火口及び中マチネシリでは噴煙の状況に、これまでと比べて大きな変化はありませんでした。

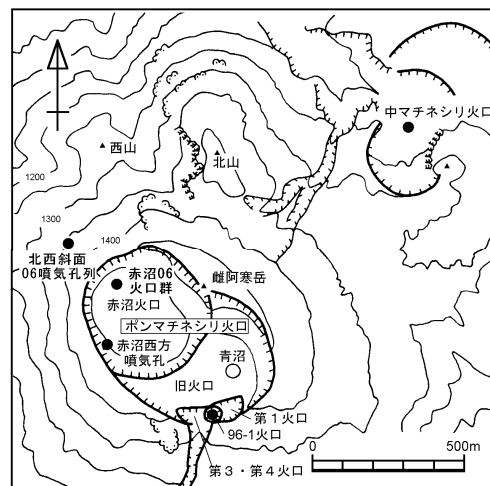


図 2 雌阿寒岳 山頂火口周辺図



図 3 雌阿寒岳 ポンマチネシリ山頂全景  
(南西側から撮影)  
2006 年 10 月 5 日、北海道開発局提供



図 4 雌阿寒岳 ポンマチネシリ山頂全景  
(北西側から撮影)  
2006 年 10 月 5 日、北海道開発局提供

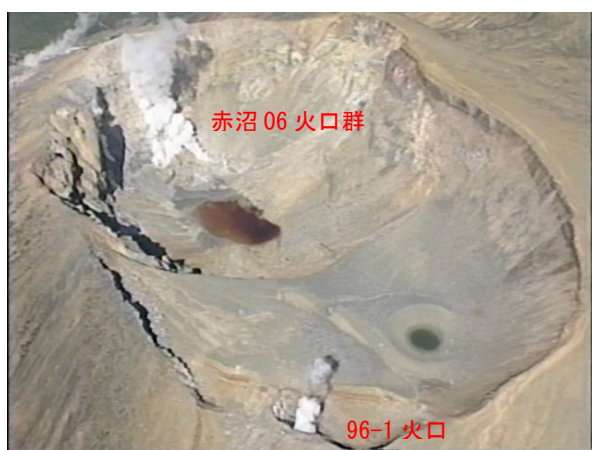


図 5 雌阿寒岳 ポンマチネシリ火口  
(南西側から撮影)  
2006 年 10 月 5 日、北海道開発局提供

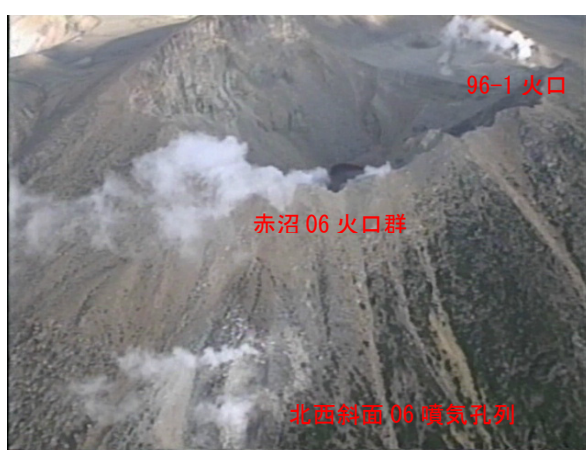


図 6 雌阿寒岳 山頂北西斜面 06 噴気孔列の噴気  
(西側から撮影)  
2006 年 10 月 5 日、北海道開発局提供

### 3 地震および微動の発生状況

火山性地震は、6 日に 21 回と一時的にやや増加した他は 1 日あたり 0～8 回と少ない状態で推移しました。震源は主にポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～3km 付近）に分布していると推定されます。

火山性微動は 5 月 10 日以降、観測されていません。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（B 点：図 7 の MEAB）

| 2005～2006 年 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月  | 3 月  | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 |
|-------------|------|------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 地震回数        | 20   | 44   | 22  | 1384 | 1290 | 128 | 986 | 34  | 34  | 23  | 42  | 79   |
| 微動回数        | 0    | 0    | 0   | 5    | 4    | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0    |

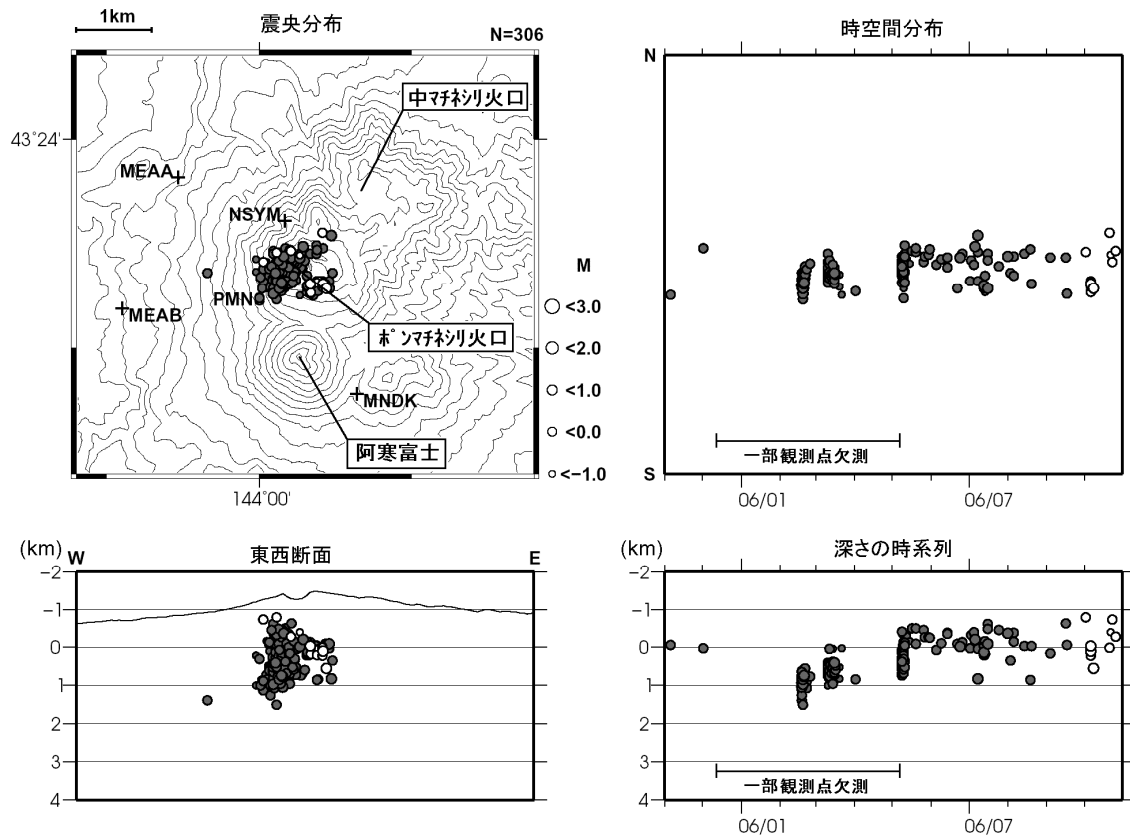


図 7 雌阿寒岳の震源分布図(2005 年 11 月～2006 年 10 月、+は地震観測点)

○印は今期間(2006 年 10 月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間(2005 年 11 月～2006 年 9 月)に求まった震源を示しています。

前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ 1～3km 付近)に分布しています。今期間に求まった震源もおおむねこの領域内に分布しています。

## 4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

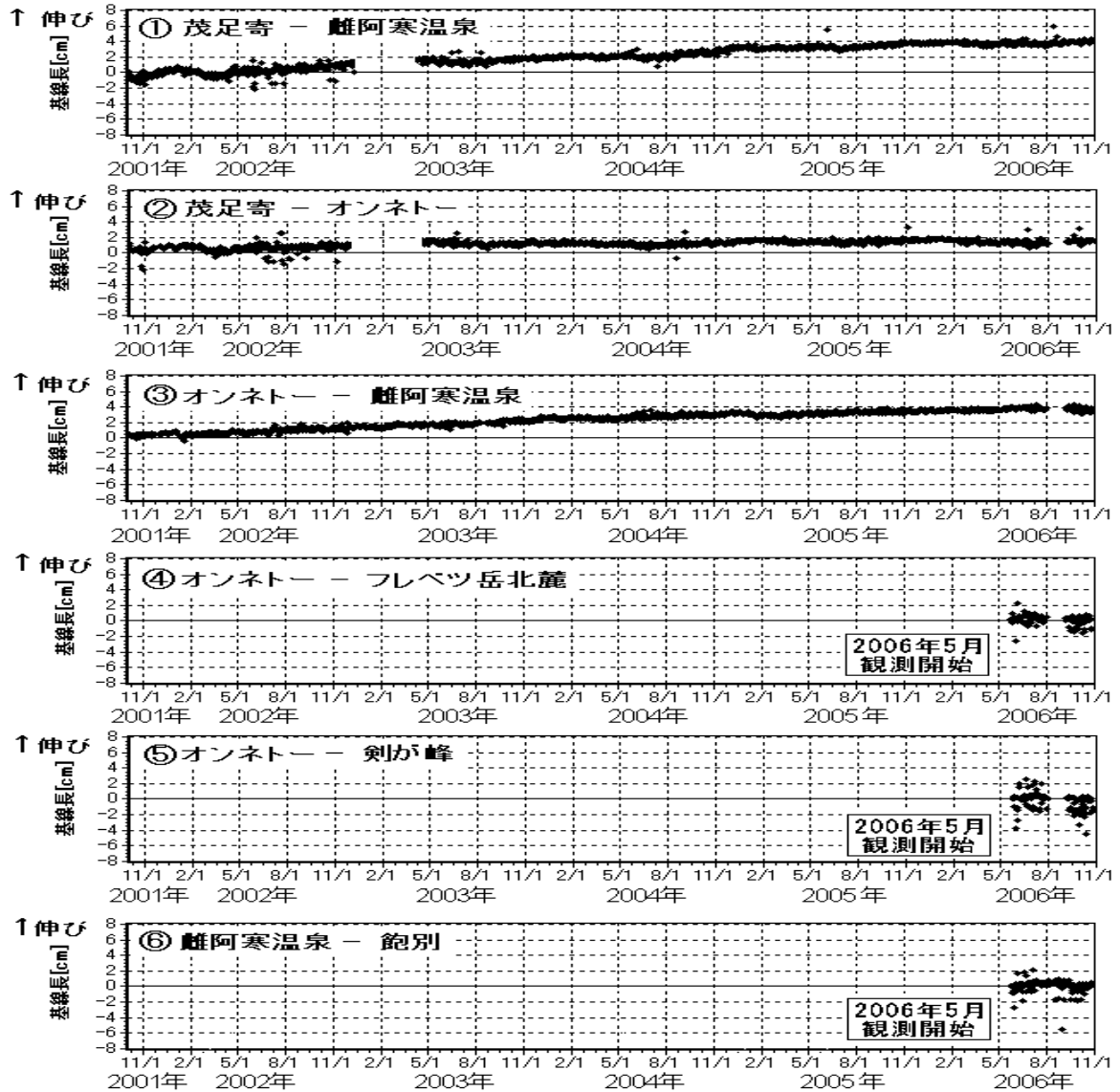


図 8 雌阿寒岳 基線長変化（2001 年 9 月～2006 年 10 月） グラフの空白部分は欠測  
「剣ヶ峰」「フレベツ岳北麓」「飽別」の連続観測点は、2006 年 5 月に観測開始。

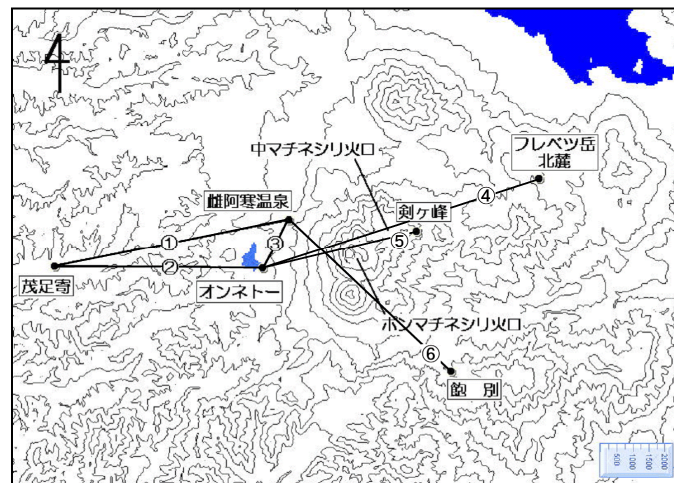


図 9 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図